

Title	損害保険会社の成長戦略 : Cross-Border M&Aの意義
Sub Title	
Author	岩下, 里詩(Iwashita, Satoshi) 井上, 光太郎(Inoue, Kotaro)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2010年度経営学 第2500号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002010-2500">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002010-2500</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

80930081

岩下 里詩

主査

副査 1

副査 2

井上 光太郎

青井 倫一

村上 裕太郎

## 研究テーマ

## 損害保険会社の成長戦略

## —Cross-Border M&amp;A の意義—

## 内容の要旨

日本の損害保険業界は 1996 年 4 月に施行された保険業法の改正に端を発した金融ビッグバンにより、自由化が進み、業界再編が繰り返され、3 メガ損保と呼ばれる時代を迎えた。しかしながら過去の合併・統合によってもたらされたものが何であったのか、実務面でのシナジーや業績に与えたインパクトが何であったのかは不明瞭である。アナリストの評価も「横並びの意識が強い業界であり、不安感が先走った」という否定的なものであった。成熟した国内市場において各社の中期経営計画には海外市場への進出が記載され、ここ数年では各社の海外における買収・出資の報道が目につく。国内損害保険会社の合併・統合時には事務・IT コストの削減などによるシナジーがアピールされる一方で海外保険会社の M&A アナウンス時にはそのようなシナジーに言及されるものはほとんど見当たらない。これらのことから日本国内の損害保険会社が Cross-Border M&A を行う真の目的は何であるのか、また、Cross-Border M&A の有効性について議論したい。

企業価値評価として DCF 法や EVA が用いられている研究があるが、本研究では保険会社のパフォーマンスを示すものとして将来の収益性を示す PBR を用いることとし、PBR を構成するファクターが M&A によってどのように改善されるのかを調べることにする。

損害保険会社のエコノミクスと M&A がそれに与える効果を考えると売上高・地域分散度・事業多角化度が考えられる。そこで本研究ではこれら 3 つのファクターと PBR の関係についてパネル分析を用いて分析することとする。また、実際の企業の事例を検証することで解析結果と実例の整合性を検証した。

定量分析の結果は次の通りである。

事業多角化度は PBR に対してマイナスに、売上高・地域分散度は PBR に対してプラスに働いた。また、世界のグローバル保険会社の動向からは定量分析の結果と整合するような戦

略が読み取ることができ、一方で販売機会や市場動向・情報を得るために他業種との連携を深めていることが分かった。